



令和5年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業

令和5年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業（主催＝日本武道館・少林寺拳法連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）を、2月14日、研究者1名と少林寺拳法連盟事務局2名が出席して、北海道南富良野町立南富良野中学校にて授業視察の形式で実施した。

少林寺拳法指導法研究事業として視察形式で行うことと、年度内に2回実施するのは初めてのこと。昨年9月に開催した第11回全国少林寺拳法指導者研修会（以下、研修会）に参加し、初めて少林寺拳法に触れた同校の横山駿太教諭が教材研究を進め、授業を行ったことを受け、視察が実現した。

■開講式

開講式では中島正樹^{なかしまさき}少林寺拳法連盟中学校武道授業推進委員と和田健日本^{わただけし}武道館振興課長がそれぞれ主催者挨拶を述べた。

■検討協議①「授業視察観点の確認」

開講式後、すぐに検討協議に入った。出席者間で視察の観点について情報を整理し統一を図った。

中島研究者が「昨年9月の研修会で得た学びから知識、授業イメージをどのように表現し、生徒に何を伝えようとしたかを確認したい。横山教諭の話す内容、示範（動き方）の仕方、生徒がどんな反応をするかに注目したい。通常は^{いんか}許可された高段者の指導者が指導にあたるが、今回は専門外の教諭が指導する。これを受け生徒は何を感じ、互いに工夫したことを共有できたか、どのように表現していくか授業視察が非常に楽しみである。また、横山教諭が準備の段階で教材として何を活用し、少林寺拳法の基本、法形、運用法、演武の

順で行う系統だった指導をするという概念を覆してもらえるような新しい発見や今後の指導のヒントをもらいたいと思う」と今回の視察に対する思いを述べた。

■検討協議②「授業視察」

武道単元は6時間想定で計画されていたが生徒の実態に合わせて授業内容を変更し、中学3年の9時間授業中の8時間目を行った。

テーマは「演武の完成度を高めよう！」に設定され、演武構成の条件には天地拳第一系と攻撃に対する防御・反撃の自由な組み合わせを盛り込むこととなっていた。これまで各チームで検討した構成内容とチーム内での号令など各自の役割を決め積み上げてきたことの最終確認を行った。その後、ICT教材（PC、モニター）を活用し、各チームが自身の演武を撮影し、動きの一体感を確認した。各チームで正しい動きにつなげるため、活発な意見が出ていた。

また、授業終了後に演武の最初にお互いが背中合わせで合掌礼を行っているチームがあったので話を聞いたところ「相手への敬意を払って礼をするものと教わったが、まずは演武前に自分と向き合うための“間”を作りたかったので構成に組み込んでみました」と説明してくれた。

■検討協議③「視察の振り返り」

授業視察後は会議室で三浦宏幸^{みうらひろゆき}校長と横山教諭に同席してもらい授業の振り返りを行った。

三浦校長から「横山先生は昨年4月に赴任してきたばかりだが本校のムードメーカーでもあり、真摯に生徒と向き合ってくれる頼れるエース。本校は昨年度まで空手道授業を行っていたが、少林寺拳法を授業で実施したいとの熱意を感じ、現場の教諭の意見を尊重して単元計画を変更した。ち



少林寺拳法の教えを自身の私生活での実験を交えて説明



撮影した演武映像を見て生徒と一緒に改善点を確認



三浦校長と横山教諭を交えて授業の振り返りを行った

ようど研修会の案内が届いていたので参加してもらい、授業準備をしてもらった」と授業採択までの経緯について説明があった。

続いて、横山教諭からは「教材研究は日本武道協議会の指導書を活用して進めた。指導書は技の手順がイラストで簡潔にまとめてあったので非常に参考になった。動画の視覚教材は私のような初心者の教諭には助かるが、授業でDVDを見せるのは機材の準備など難しい。タブレットで生徒自身がもっと身近に動画を資料として見られるようなサポートがあるとうれしい」と現状と課題について報告した。

谷聡士^{たにさとし}少林寺拳法連盟振興普及部長が今回の視察について「私自身も中学校で少林寺拳法授業を担当しているが、専門外の教諭が授業する場面に



動きが一致しないチームをサポート



巡回指導で技の手順を示範



横山教諭から授業準備における指導書の活用について説明があった

初めて接し、現場の細部を見ることができたのは大きな収穫であった。先生自身が楽しんで授業を行い、生徒と一緒に楽しむという理想の授業が展開されていた。今回、現場に必要なサポートが整理できたので、早速連盟として対応していきたい」と感想を述べた。

■閉講式

閉講式では中島研究者が講評で「今回の視察は短時間ではあったが非常に内容の濃い、貴重な時間を過ごせた。連盟に持ち帰り、今後の指導法研究事業や研修会に活かしていきたい」と述べた。

その後、和田課長が主催者挨拶を行い、全ての内容を終了した。

【出席者（敬称略）】 研究者：中島正樹、連盟事務局：谷聡士・秋元宏介
